

IPネットワーク管理・人材研究会資料

イー・モバイル株式会社



- 社名
 - イー・モバイル株式会社
- 資本金
 - 718億円
- 設立
 - 2005年1月
- 沿革
 - 2005年1月
 - イー・アクセス株式会社100%出資のモバイル・ブロードバンド通信事業の企画会社としてイー・モバイル株式会社設立
 - 2005年11月
 - 総務省より、1.7GHz帯におけるW-CDMAでの本免許を取得
 - 2007年3月
 - 東京都23区、名古屋市、京都市、大阪市でHSDPA通信サービス『EMモバイルブロードバンド』を開始
 - 2008年3月
 - 全国で音声サービスを開始

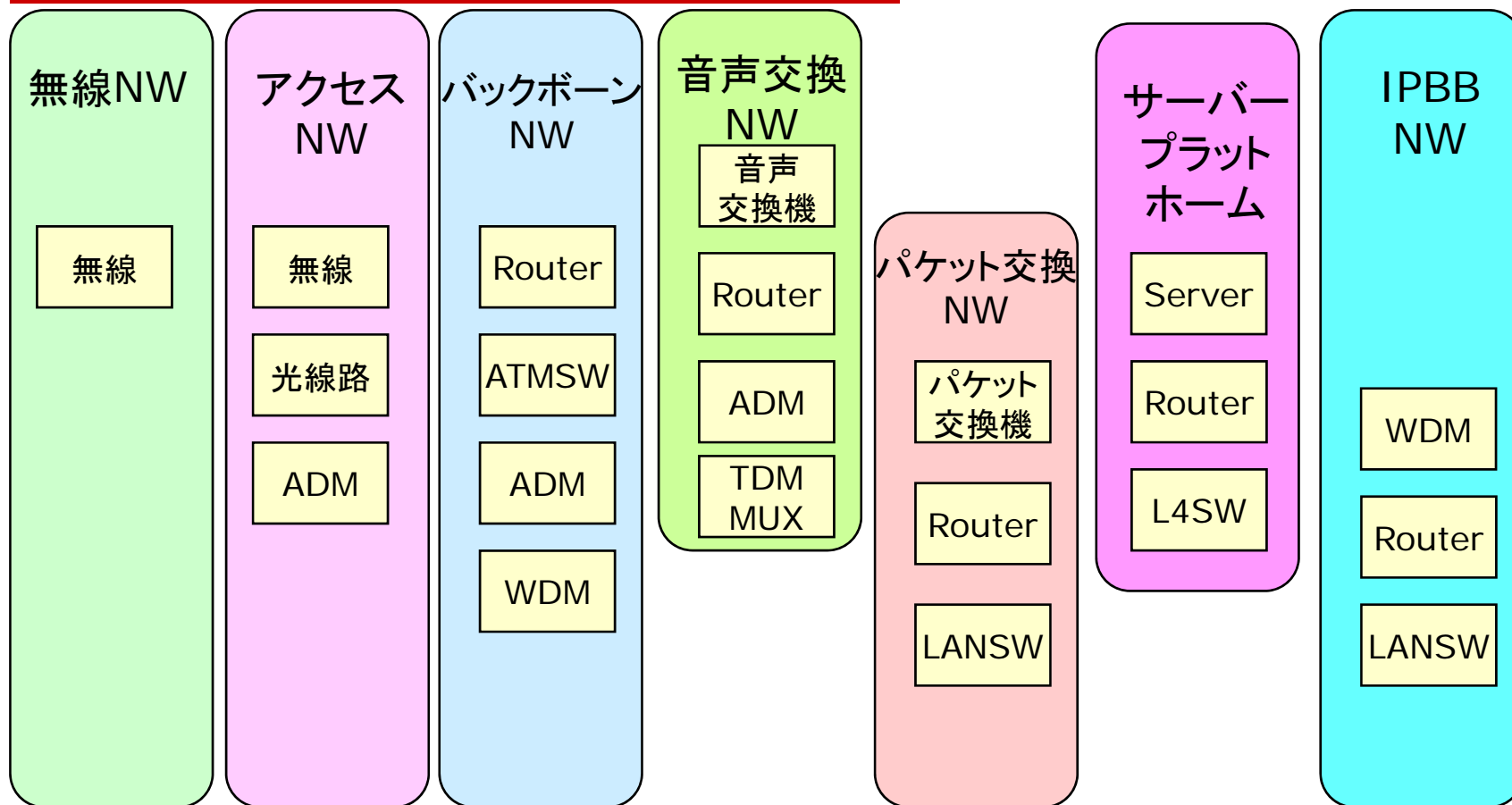
- 3G携帯電話
 - ・音声役務
 - ・携帯電話端末インターネットアクセスサービス
 - ・携帯電話パケット通信サービス(最大7.2Mbps)



- その他(再販)
 - ・DSLアクセスサービス
 - ・インターネット接続サービス



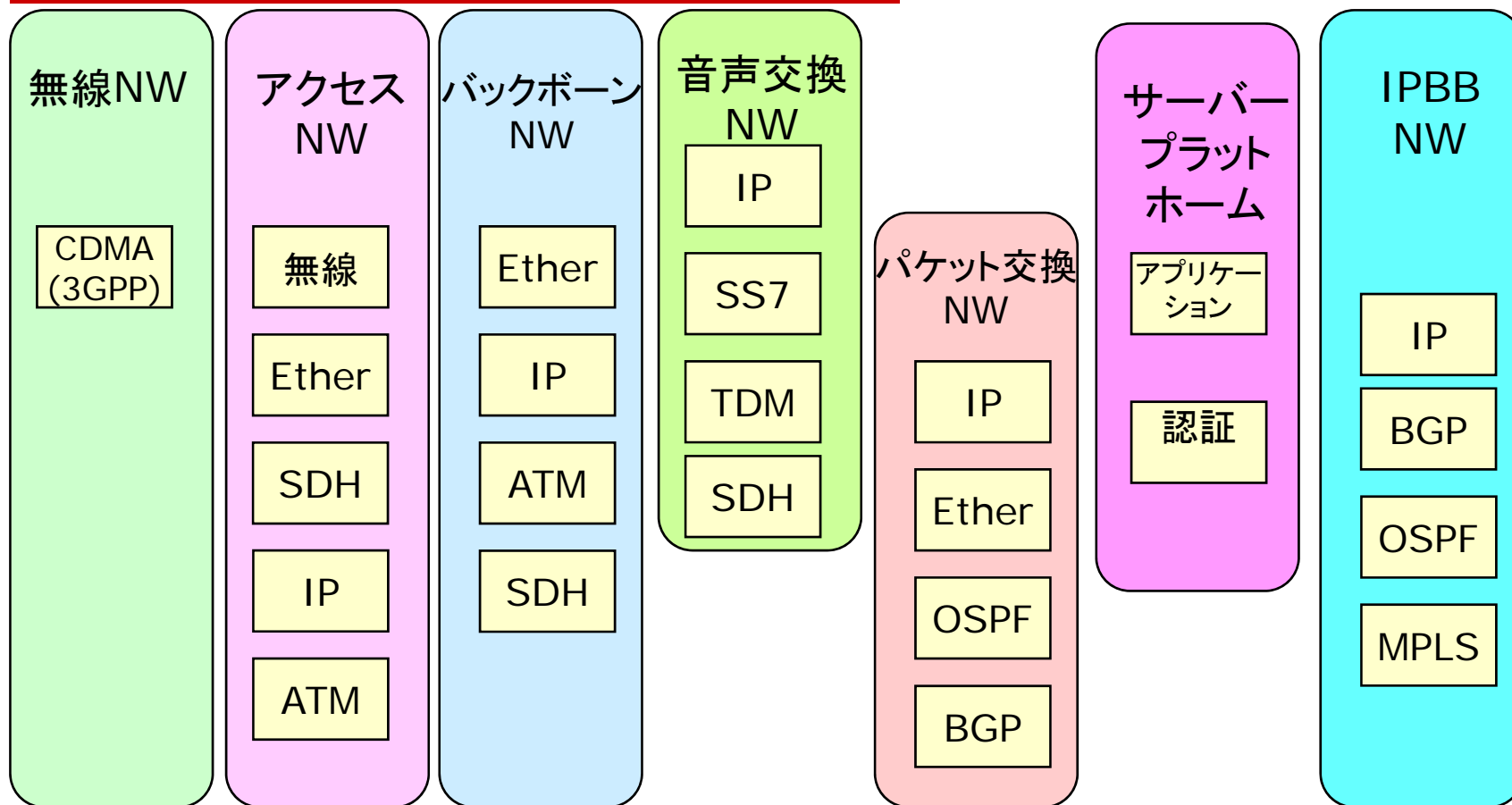
当社のネットワーク設備概要



[特徴]

- 「電話」と「パケット」の両サービスを一気通貫にて提供
- イーサネット, SDH, PDH/T1から10GbEまで種別が多様
- 2年程度の歴史しかないネットワークであるが、レガシーとIPが混在

当社のネットワーク要素を構成する技術概要



[特徴]

- 3GPPベースのネットワークを様々な要素技術を使い構成
- 全体を管理するには極めて広範囲な通信知識が要求される

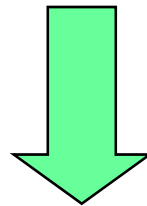
➤ キャリア採用

- ・資格保有を募集条件の一つとして、中途採用を実施
- ・電気通信業界での実務経験者の積極的採用

➤ 新卒採用者/資格未保有者

- ・社員の公的・民間資格の取得意欲の創造、及び業務上有益な資格取得の促進を目的とした資格取得支援制度の整備
 - 推奨民間資格例:ドットコムマスター、オラクルマスター、シスコ技術者認定、LPIC、MCPC等
- ・ベンダーでのトレーニングによるスキル習得
- ・資格(スキル)保有者の指導の下、OJTを実施
- ・外部研修、eラーニング等の充実を検討

- 手がけている範囲が広く、かつ展開が急速なため、短期間で広範囲な技術を学ぶ必要がある。
- 事業展開のスピードの中で、若手社員を対象としたOJTをとおして、人材育成を進めている。
- 基礎的もしくはジェネラルな技術を学ぶ機会は相対的に不足している。



- 個々に高い技術力を有する技術者は存在する
- ジェネラルに全体を見ることができる技術者は相対的に不足がちである

1 ネットワークのIP化に伴う電気通信設備の設計・管理手法の変化に伴う課題

- ・ ネットワークのIP化に伴いネットワークの管理手法に変化があった最も大きな点の一つは、ネットワークがベストエフォートベースとなり、トラヒックの管理・監視をすることが品質を保持する為に必須となっている点が挙げられる。
- ・ IP化が進んでも、基礎的なデジタル通信知識は設備運営に必要。また、レガシーネットワークが残存している限り、従来のスキルは引き続き不可欠である。

2 新たな技術やリスク管理に対応した技術者育成の在り方について

- ・ IP化に伴い、従来のレガシー網に比較して、より情報セキュリティ対策が重要となっている。
- ・ 網全体の管理者にとって、個々の細かい技術要素を束ねる役割が大変重要である。

3 事業規模や設備の構成・機能等により求められる電気通信主任技術者のスキル(知識・能力)要件について

- ・ 基本的に大きな変更は必要ないと考えるが、提供するサービス種別に基づいた緩和の検討は実施されても良いと考える。

4 電気通信主任技術者の在り方について

- ・ 技術が多岐に亘る現状、電気通信設備の工事、維持及び運用に関してはトータルな知識・能力が必要であると考え。一方、個々の技術分野も大変細分化されており、専門に特化した技術者も必要となってきている。レガシー、IPネットワーク、次世代技術との相関性を考慮していくことが重要であると考え。

主任技術者の資格取得については、既存の試験内容に加え、IP化に適応した形で、利用されている技術要素を適切に取り入れる等の対応は必要と考える。

- ・ 遠隔監視による設備の監視管理拠点の集中化が進んでいる現状、電気通信主任技術者の配置については、監視管理拠点に対応した集約の方向が望ましいと考える。